

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students

プロフィール (Profile)



氏名 (Name)

吉川 智基

所属 (School)

文学部 言語文化学科 英米言語文化コース

学年 (Grade)

2年

留学先 (Name of overseas institution)

ダブリンシティ大学 (DCU)

留学期間 (study abroad period)

2022/9/2~2023/1/24

記入日 (Date) 2023/2/27

留学レポート Study Abroad Report

こんにちは。アイルランドのダブリンシティ大学に1セメスター間留学しておりました、吉川智基です。僕の経験が何らかの形でこれを読まれているみなさまの役に立てれば光栄です。

●留学のきっかけ

昔から留学がしたい、海外で勉強をしてみたいという漠然とした憧れを抱いていました。大学に入学してから、以前 DCU に留学されていた方の留学レポートを読み、ディスカッションやグループワークが盛んに行われるという点で海外での教育を受けることに興味を持ちました。また、自分の専門分野を英語で学ぶことができることも魅力的でした。学生のうちに留学や海外経験を積みながら、教職課程や副専攻との両立も考え、1セメスター間の留学を決めました。

●事前準備

アイルランドと聞いて、ピンと来る方は少ないかもしれません。僕は留学前に YouTube や SNS など現地の様子を見たり、簡単な情報を調べていました。相手の国について知っていることを伝えるととても喜んでもらえますし、自分自身でも興味が深まります。英語に関しては、行く前に絶対にスピーキングや単語力を上げて行こうと思っていましたが、ESS に所属していたので英会話は定期的に行っていたものの、結局自主的にあまり時間を割くことはできませんでした。アイルランドは事前のビザ取得が不要で、DCU への手続きも国際交流課の案内に従って行うことができました。学生寮の抽選に落ち、渡航1週間前まで住むところが決まらず、1ヶ月目はホステル暮らしになることも想定していましたが、運よく受け入れてもらえるホストファミリーに巡り合うことができました。本当に苦労したので、早めに色々な物件情報を調べておくと思いいます。

●DCU での授業

DCU では1セメスターで5つの授業を取りました。自分の興味のある分野から3つ、英語系の授業を2つ選択しました。少ないように思われるかもしれませんが現地では普通です。空き時間はノートをまとめたり友人と散歩して交友を深めたりしました。一つの授業は週に2回、3回行われることが多く、連続で2時間行われる場合もあります。例えば、僕が受けていた Text Analysis の授業では、月曜日に全体講義があり、水曜日には少人数で行われるチュートリアルでグループワークやディスカッションが主に行われていましたので、講義で学んだことを復習して実践・活用することができます。

また、ヨーロッパ圏内からの留学生が多くいました。授業内容に関わらず、留学生もアイリッシュも同じように扱われたので特に差を感じることはありませんでした。日本人が僕一人だった授業もありました。DCU では先生と学生はお互いにファーストネームで呼び合うことができ、距離が近く感じました。授業中には、スマホから匿名で質問や意見を送信することができ、学生が発言しやすい環境が整っていました。

学期末にはグループプレゼンテーションの課題があり、指示の中に「自分の責任を果たす」というものがありました。調べるのが得意な人、まとめるのが得意な人、人前で話すのが得意な人など、それぞれの長所を生かして責任を果たすことが求められました（もちろん互いに協力します）。日本にいた時はグループの全員が何かしらの発言をしなければならないという環境でしたが、自分の役割に集中できることが新鮮でした。また、ディスカッションでは黙っていると話がどんどん進んでしまうので、ついていけなくなった時や何か意見があるときは絶対に伝えるようにしていました。

●日常生活

ダブリン内の移動は基本バスを使います。午前中は基本定刻通りに来るのですが、夕方から夜中は必ずと言ってよいほど遅延やキャンセルが発生することがありました。ただ、バスはダブリン内を24時間運行し

ているので、大学でパーティーがあった際には便利でした。降車時にはドライバーに“Thank you”と声をかけるのが素敵だと感じたので、僕も真似して言うようにしていました。車社会なので、ホストファミリーと出かける時はいつも車で移動していました。

アイルランドは自然豊かで、渡航前にイメージしていた以上に緑であふれていました。広い公園がたくさんあり、コマドリから白鳥までたくさんの鳥やリスなどの動物を見ることができました。天気は曇りが多いと聞いていましたが、割と晴れることが多かったです(と思うと急に雨が降ってきてまた晴れたり曇ったり…笑)。外は寒いですが、家中は暖房設備があると快適で、ホストファミリーは冬でも半袖でした。

物価はそれほど高いと感じませんでしたが、円安(€1=約¥143)だったので予想以上に費用がかかりました。学食では€5/6 ミール(すごいボリューム)も日本円だと 800 円ほどします。ホストマザーに話すと、朝余裕があるときはランチを持たせてくれました! また、外食するとたいてい€15~€25(¥2000~¥3500)ほどかかるのでご注意ください。

大学では Society(サークル活動)にも参加していました。毎年好きな society を何個でも所属できるそうで、僕は Japanese society, Drama society に参加し、留学生や国際交流を望む学生を対象とした Erasmus Student Network(ESN)にも所属していました。ESN では Tea & chat という交流の場が設けられていたのですが、毎週参加してたくさんの学生と話し、イベント内で文化交流楽しみながら英語力向上の機会にもなったと思います。



▶友人とゴールウェイへの旅行♪

せっかくダブリンへ留学に来ているのだから、時間を無駄にしたいと思わず、課題がない時はホストファミリーと時間を過ごしたり、たくさんのイベントに参加したり友人と出かけたりして積極的に活動するようにしていました。

現地で知り合った日本人の留学生とも良好な関係を築き、スイスやハンガリー、フランス、中国などからの留学生たちとムービーナイトや、自国の料理を振る舞うパーティーをよくしていました。アイリッシュの友人もたくさんできました。一緒に旅行に行ったり、週末に出かけたり、帰国日が近づくと、サプライズでお別れパーティーも開いてくれました!

●ホストファミリー

DCU の Students' Union が運営するサイトで紹介されていたリストから条件に合う物件にメールや電話をかけた中で快い返事をいただいた方が僕のホストファミリーになりました(他に連絡をしていたところからは結局一件も返事はありませんでした)。出発の一週間前にやっと決まったので本当に安心しました。ホストファミリーはアイリッシュの家族で、食事と一緒にいただき、とても親切にしてくれました。アイルランドのお気に入りの場所を紹介するのが好きだと言って、車で色々なところへ連れていってくれました。僕が彼らにとって最初の日本人だったらしく、僕が些細なことでも珍しがっているとアイルランドやヨーロッパの文化をフルに体験させてくれました。アイルランドは紅茶の消費量が世界2位とイギリスよりも紅茶文化が強く、ホストマザーは1日に7杯紅茶を飲むと言っていました。毎日帰宅後や食後、家で顔を合わせた時には必ず“Would you like a cup of tea?”



▶アイリッシュブラックファスト

と言って温かい紅茶とビスケットを用意してくれました。紅茶の習慣が身に付きました。

ホストファミリーは料理が上手で、アイリッシュブラックファストやコドルというスープ、フィッシュアンドチップスなどアイルランドの食事や欧風料理をたくさん振る舞ってくれました。僕は日本での習慣で食事を残したくなかったために毎食完食していると、太りました。夜にはリビングでくつろぎながら、ホストファミリーにリベラルな思想を教えてもらったり、日本との違いについて話してのんびり時間を過ごしたことは良い思い出です。英文学に興味があると伝え、Seamus Heaney の詩集やアイルランドの伝説が書かれた絵本を貸してくれました。



▶ホストファミリーの親戚が集まってクリスマスディナーをいただきました!

●英語に関して

他の国からの留学生はペラペラで圧倒されることがほとんどだったのですが、中にはフランス語のアクセントが強い英語も聞きました。僕にとってはそもそも英語に聞こえないくらいで、それでも彼らはそれを気にすることなく堂々と話している様子を見て、間違いや拙い発音を気にし過ぎて静かになるよりも、どんどん何でも言っていこうと思うようになりました。ホストマザーと話していて、water や meat の発音が「ウォーシャー」、「ミーソ」のように聞こえることがあり、アイルランドで初めて聞く発音の仕方が面白いと感じまし

た。他にも bus が boss とは違う「ボス」、「ブス」と発音されます。自分の英語力と普段日本では曖昧な表現が多かったためか、自分の言いたいことをうまく言語化できず困ったこともありましたが、誰も流すことなく待って聞いてくれたので、諦めることなく自分の言葉で伝えることを大切にできました。

自分の英語力が特別向上したと感じませんが、友人やホストファミリーから 9 月より英語上達したね、と言われるのはとても嬉しかったです。帰国後も英語学習を続けていこうと思います。

●留学を終えて

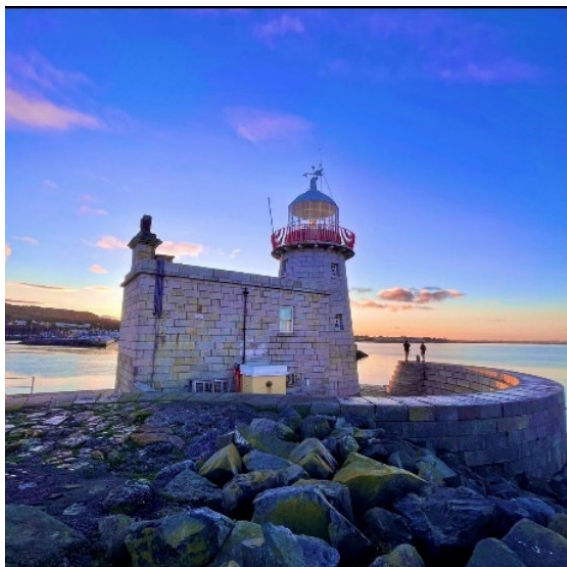
留学を終えて今感じる自身の変化は、自分のアイデンティティを誇りに思えるようになったことです。海外ではあたりまえに違いを尊重し合い、相手も自分も褒めることがよくあります。今は他人とは違っていても、自分の考えや価値観は大切にしようと思います。同時に、日本のことが好きになり、日本文化についてもっと知りたいと思うようになりました。出会った人に日本人だと言うと、知っていることを色々と話してくれるのに対し、自分は他の国について、さらには日本のことについて知っているようで他人に伝えられるほどわかっていないと感ずることがありました。また、会話中やお礼をいう時に無意識に頭を下げてお辞儀をしてしまうことがあり、周りからは「何してるの?」という反応で、当初は嫌だと思っていたのですが、それは相手へのリスペクトを表す方法だと伝えると理解してもらえ、日本人の自分だから咄嗟にできることなんだと気づくことができました。

最後に留学を考えている方へ。行こうか迷っている方は、交換留学に関わらずチャレンジしてほしいです。僕はこの交換留学プログラムで行けなかったら諦めるつもりだったのですが、実際に行ってみて本当によかったです。きっと留学に行かなかったらずっと後悔したと思います。世界には色々な人がいて、日本ではなかなかできない異文化体験の毎日です。留学が人生にどういう影響を与えるかは人それぞれだと思いますが、学生の間はたくさんのチャンスがあると思うので、後で後悔しないように是非飛び込んでいってください。

吉川智基

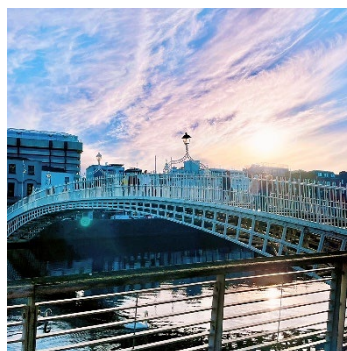


▶ロック・オブ・キャシェル付近



▶ハウスの灯台

▶コドル
ジャガイモ、豚
肉、玉ねぎなどを
煮込んだアイルラ
ンドの家庭料理



▶リフィー川に
かかる橋



▶ギネスビールアイルランドでは、
18 歳から飲酒ができます。